



あたらき大地



1986年 新年号 NO. 12



“年頭にあたって”

昭和61年の新春を迎え、皆様と共に祝いいたしたいと思ひます。昨年中に木青会館、ウッドルーム大阪、美原木材団地簡易郵便局がそれぞれ予想以上に立派に開館され、利用者も多く大阪木材工場団地協同組合の立派な施設として定着しました。

又、組合員の皆様多数のご協力により実施された第一回木材団地ウッドフェアは、予想以上の大勢の方々の参集を得て物心両面に第二回からの実施に向けてはずみがつきました。今年61年は、早々に町名が「美原町木材通1丁目～4丁目」と変更され、木材の街として一段と躍進することになりましたが、同時に永く木材の街として繁栄することを全美原町民に対し、又全国の人々に約束したことの責任を組合員全員が肝に銘ずる必要があろうかと存じます。3月には新しい組合員並に組合PR用パンフレットが完成します。又、中央通りの緑化も完成致します。そして5月には天皇陛下をお迎えして植樹祭が行われ、全国より2,500名余りの森林、林業、木材関係の方々が当団地へお越しいただくことになります。又、秋には組合員の叡知を結集した第二回ウッドフェアが開かれます。その他種々のこころみが組合員皆様の総力によって計画され、実施されるでしょう。

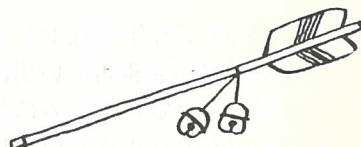
飛翔し続ける大阪木材工場団地協同組合として、組合員の繁栄のために事務局も不断の努力を重ねて行きたく存じています。なお、(株)大阪木材団地サービスの保険業務および、美原木材団地簡易郵便局の貯金業務につきまして、一層のご協力、ご支援をお願いいたします。

【 団地内の動き 】

★ 団地中央通りの緑化パイロット工事の着工について

既報(60年7月号)の通り、今年度事業として計画している団地中央通りの緑化工事が国の緑化パイロットモデル事業として、去る11月25日付で着工されました。延長約800mの歩道上に、高木を南京ハゼ、低木をシャリンバイ等でグリーンベルトにして植樹されるものです。事業主体は、大阪府南河内自然保護事務所、工事業者は狭山町の「(株)青紅園」で竣工は、昭和61年3月末の予定。

これによって団地のメイン通りの中央通りは、緑のうるおう美しい街路として新しく生まれ変わる予定です。



★ 木材団地の住居表示の変更について

去る11月1日より木材団地S住宅(国道309号線より西側住宅地)で全面的に住居表示が変更され、今までの「美原町菅生〇〇」が「美原町青南台〇丁目〇番〇号」に変わりました。そのための表示看板が、木材団地信号北西側に設置されております。

又、国道以東の工場地(一部住宅地も含む)についても来る2月10日実施を目標に、現在美原町当局により準備中です。こちらは、今までの「美原町菅生〇〇又は美原町平尾〇〇」が、「木材通〇丁目〇番〇号」に変わります。これで今まで分かりにくかった地番の問題、外来者の案内、郵便物の遅延等の諸問題が、一挙に解決されるものと期待しています。

なお、去る11月20日に、美原町当局の主催により『木青会館』において、法人を対象に実施後の法人登記変更等の手続きの説明会が開催されました。

又、手続・内容等についてのお問い合わせは、下記までご照会下さい。

記

美原町都市計画課

TEL 0723-61-1881

※ 参考までにこの住居表示の変更により、当組合事務所は「美原町木材通4丁目1番1号」となります。



“木栄会”だより

★ 団地内事業所の相互見学会を実施

去る11月12日(火)午後1時より、同会情報交流委員会の事業として、第4回団地内事業所相互見学会が実施されました。

当日は11月上旬にしては風がきつく、又小雨も降る悪天候にもかかわらず熱心な会員32名が山田製材(株)・田中木材産業(株)・大阪化学振興(株)及び浦本木材(株)の4社を見学し、各社代表者による説明の後、熱心な質疑が交わされた。次回実施は、昭和61年2月の予定です。

★ 親睦忘年会を開催

去る12月12日(木)午後6時30分より「あららぎハウス」において、昨年より約3割増の参加者37名により恒例の忘年会が開催された。

今年も昨年同様ヤングギャルのコンパニオン5名が、重苦しい男ばかりの宴会に華をそえ参加者は歌にゲームに興じて、これぞ親睦という名に相応しい盛り上がりを見せた。



木栄会忘年会風景

★ 情報交流委員長の交替について

情報交流委員会委員長として、発足以来お世話していただいていた細見光夫氏(大阪化学振興(株))が、このたび転勤のため退会され、後任として高島正一氏(東部木材(株))を迎えることになりました。高島社長は、昨年度組合加入のニューフェイスですが、熱心さでは前任細見委員長にも、勝るとも劣らない好人物です。同委員会のますますの充実が期待されます。

“ウッドリーム大阪”だより

★ 木材知識講習会開催

10月25日と11月28日の両日、午後1時～5時までのスケジュールで2回にわたり標記講習会が開催された。この企画はウッドリーム大阪に出展していただいている企業16社を4組に分けて、各社別に木材、製品の専門知識を広く、設計士・建築関係者・木材業者等に普及宣伝することで木材の利用を促進しようとするものです。

第1回目は、永大産業(株)、大阪化学振興(株)、(株)紅中、成瀬特殊木材(株)の4社、第2回目は、朝日特殊合板(株)、武田薬品工業(株)、(株)中川木材店、トリスミ集成材(株)の4社が担当し延130名の聴講者が集まった。参加者からの好評は予想以上であった模様である。

★ 木の文化講演会開催

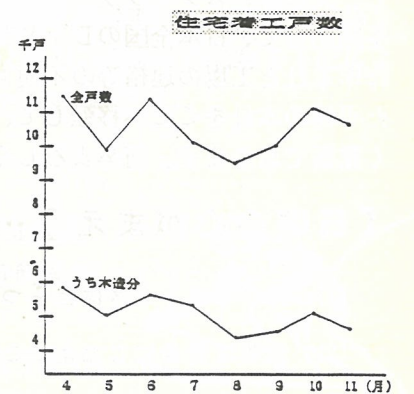
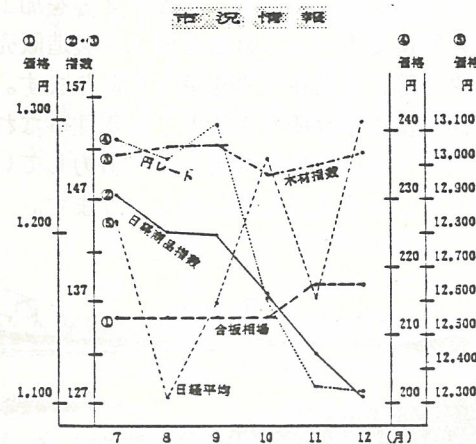
回を重ねて、第三回を迎えた文化講演会は、12月度のウッドリーム企画事業として、去る12月6日(金)午後1時～3時に、『奥様のためのインテリア教室』と題して、テレビでも著名な女性建築家、前田邦江先生を講師に招いて開催された。

聴講者は30名と若干少なかったが、先生のソフトな話し振りのもとで、住いに直接かわりの深いインテリアに関する身近な問題について質疑のやりとりが行われ、女性の聴講者が多かっただけに、さわやかな雰囲気であった。

★ 中国林業経営管理訪日団一行 ウッドリームを見学

去る12月3日より来日していた標記訪日団は、日中経済協会との会合、各林業関係の視察見学など各地でのスケジュールをこなしたあと、帰国の前日(12月16日)当地を訪れた。

一行は、徐有芳氏(中国林業部林業工業局長)を団長とした林業関係者12名で当日は中川理事長との懇談会、館内の見学、トリスミ集成材(株)及び(株)高島屋工作所の2工場を見学して廻ったが、一行はウッドリームを評して、『まるで木の世界に入ったようだ』『気持ちがとても落ち着く』との称賛のことがあり、しばし両国の林業界の話題に話の輪が広がり、日中友好の一助になったと思われる。



『ちょっと一言』

— ご縁です。よろしく —

菊水株式会社 笠井文雄



先日ある結婚式のスピーチの中で、「この広い空の下に、お互いが、お互いのご縁で結ばれた一組のカップル……」という話があった。大阪木材工場団地協同組合各メンバーも、広域の中から「美原」に各々の事業の場所を求めて奇しくも集まった集団である。このご縁をお互いが大切にしたいものだと考える。

昨年までは組合メンバーの一員ではあったが、ただひたすらに広報にのみ頼る一人であった。ある時、遊休土地委員会に出席するようになり、ある時は理事会に出席する中で、理事長以下、大変多くの人々が大変忙しい中で、組合運営をどうすればよい方向へ向うか、真剣に討議されているのを見て感謝の気持ちを込めて、参画意識をもった次第です。

一つ一つの輪がひろがりを見る時、成功裡に終了した「ウッドフェア」に続くものが出てくるでしょうし、その輪が私をして木栄会英会話同好会へ参加をかりたてた以上のものが、お互いの中から参加意識をかりたてるものともなりましょう。「自利自他円満の功德」とか申します。私同様多くの人々が、若い人々が大阪木材工場団地組合の種々の活動に参画されれば……との思いで『ちょっと一言』。

【組合員企業の紹介シリーズ】『うちの会社』

〔その12〕 共立木材株式会社 社長 磯口清



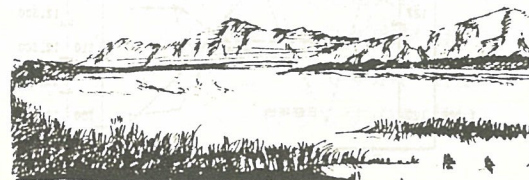
当社は昭和28年8月共立木材商会として、大阪市大正区千島町に於て北海道材・南洋材の原木及び製品の販売を主業として設立し、主に車輛用材に力を入れ営業を始めました。37年2月10日に同商会を法人に改組し共立木材株式会社とする。その後、44年11月大阪市の港湾計画に従い、千島町より住之江区平林に本社を移転し南洋桜（ニヤトウ）の撰木丸太及び乾燥木取材に力を入れ、近畿の木材問屋さんに販売しております。

なお、当団地には最初からお世話になっており、42年12月に美原工場を設立し日曜大工用材の加工販売部門としてラワン材の製品を主業に金物問屋、百貨店、スーパー等を得意先として営業を開始しました。

現在DIY用材としてラワン材のほかスプルース、杉、松、桧、朴、アガチス等を加工し、又合板、スターウッドの木工製品の販売も加え特に愛犬ハウスは数年前より製造販売を開始して、日本全国のDIY問屋・ホームセンター等に出荷御引立を蒙っております。昨年本社と工場の連絡等の不便もあって工場内の西北位に事務所を新設し、永年住みなれた平林の本社をここへ移転して、社員一同一体となって木材団地の発展と共に努力していく覚悟しております。何卒よろしく御指導、御鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

【日頃の心がまえ】……その1

- (1) 伸びるチャンスは自らつくりだせ。
- (2) 失敗は骨身にこたえてこそ役に立つ。
- (3) 身動かざれば、心働かず。



【事務局だより】

◇ 安全運転講習会開催される

去る11月19日午後5時30分よりウッドルームに於て、団地内自動車運転免許証保持者を対象に、標記講習会を開催した。

講師を黒山警察署、交通課、石丸係長にお願いし、16mm映画と講話による、約1時間の講習が実施された。

皆様も、業務でヌレジャーでハンドルを握る時は、是非安全運転を心がけて下さい。

◇ 組合パンフレットの作製について

“あたらしき大地”No.11号でお知らせしましたとおり、現在、組合の対外向けPR用パンフレットを作製中で、12月中旬に資料、原稿等をすべてとり揃え、1～2月にかけて校正、製版、印刷を行い、2月末に出来上がることになっています。前回作製（昭和57年10月）したパンフレットに比べて、今回は色採（全カラー）、紙質、体裁などかなり改善され、対外向けPR用としては遜色のない立派なパンフレットとしてお目見えする予定です。

なお、同パンフレットに掲載される木材団地の全景写真（航空撮影）と木材産業振興のシンボルとみられるウッドルーム大阪の写真（全四頁）については、各社が独自で作製するパンフレットにとじ込みを希望される方も多いようで、そのため近々、同写真印刷の入用希望をとりまとめて別途増刷りすることにしております。

◇ 大阪木材団地サービスの会社マークの募集について

皆様にご愛顧いただいております大阪木材団地サービス（大阪木材工場団地（株）の傍系会社）について、このたび同社のマークを皆様から下記要領で募集することにしましたので、ふるってご応募ください。

記

- 賞 金 2万円（採用作品）
- 応募資格 大阪木材工場団地（株）の組合員及びその従業員
- 切 昭和61年1月29日（水）
- その他 指定の用紙はありません。
- 提出先 組合事務局 0723-61-2670



◇ ウッドルーム友の会名称募集について

「ウッドルーム大阪」では、このたび木を愛し、木の文化を理解し、木への親近感を増進させるため木の愛好者の集いの会を発足することになり、今回その名称を下記により募集いたします。ふるってご応募下さい。（一人何点でも結構です）

記

- 賞 金 3万円（採用作品）
- 資 格 大阪木材工場団地（株）組合員及び従業員
- 切 昭和61年1月29日（水）午後5時まで
- その他 指定用紙は別にありません。
作品には会社名・氏名を明記して下さい。
- 問い合わせ 組合事務局 0723-61-2670



【第1回ウッドフェアのアンケート調査結果】

昨年10月27日に開催された第1回ウッドフェアで、来客者に対して行われたアンケート調査の結果（回答者1,308名）がまとめられた。

内容は下記のとおりで、今後の開催のための参考になれば幸いである。

記

◇ ウッドフェアの催しは何で知ったか？	D. 開催会場の広さ	◇ 買物客の住居地域
1. 新聞チラシ広告 52%	1. 狭い 17%	美原町 36%
2. 知り合いの人から聞いて 27	2. やゝ狭い 29	富田林市 26
3. 団地内の看板を見て 18	3. まあまあ 54	堺市 11
4. その他 3	E. 開催日数の希望	狭山町 8
◇ ウッドフェアについての感想	1. 1日間 13%	羽曳野市 4
A. 欲しい商品はあったか。	2. 2日間 52	大阪市 4
1. あった 76%	3. 3日間 35	河内長野市 2
2. まあまあ 21	◇ どのような商品を希望するか？	松原市 1
3. なかった 3	家具 24%	藤井寺市 1
B. 商品の値段は	木製品 15	その他 7
1. 安い 48%	日曜大工品 11	計 100%
2. まあまあ 47	工芸品 11	
3. やゝ高い 5	木製クラフト 9	
C. 買物にきて	園芸品 8	
1. よかった 69%	植木 8	
2. まあまあ 28	住宅機器 7	
3. 期待はずれ 3	エクステリヤ品 5	
	唐木 2	
	計 100%	

＜ 告知板 ＞

★ 団地内の会社に就職を希望します。
61年3月 短大卒の女子事務職員

★ 中古のフォークリフトを格安なリースで譲ります。
小松フォークローダー2屯
(お問い合わせは組合事務局まで)

本号よりみなさんからの求人、求職や欲しい品物をさがし求めている場合、或いは不用のものを他に譲りたい場合などに利用していたゞくため、この“告知板”を設けました。ご希望の方は組合事務局宛、お申し出下さい。

【 編集メモ 】

新年あけましておめでとうございます。新春対談の編集の関係で発刊がおくれましたことを心よりおわび申し上げます。

“あたらしき大地”も発刊以来まる2年たちました。今回、新しく“告知板”のコーナーを設けましたが、今後も趣向をこらし又、読者の生の声も取り入れ、皆様からより一層親しまれる情報紙となるよう努力していきたいと思ひます。

新春対談



大阪府農林部長 井上浩一郎氏

理事長 中川藤一氏

新しい年を迎えましたが、今年は関西新空港や学園研究都市の建設など大型プロジェクト事業の開始に伴って、木材の需要はどうか、われわれ業界の対応策は、そして又昨年オープンしたウッドリーム大阪の今後の運営や当木材団地のあり方などについて、今回、井上大阪府農林部長にご登場願ひ、中川理事長と対談していただいた。



対談風景

理事長 新年おめでとうございます。本年は、「飛翔」をスローガンに、大阪木材工場団地の一層の発展のため、取り組んで参りたいと思ひますので、よろしく願ひいたします。

部長 おめでとうございます。「飛翔」とは、いかにも躍進を目指す木材団地にふさわしい言葉ですね。

理事長 本日は、井上農林部長さんと、関西新空港の建設をひかえて今後の木材需給がどうか、又、木材団地の在り方など、いろいろな問題について、お話を聞かせていただきたいと思ひているわけです。

まず、新空港がらみで、木材の需要がどうかですね。70年万博の時分は、投資がもたらす経済への波及効果は、大体、投資の3倍というようなことが言われたんですよ。だから、大阪北部地区の木材小売業者は随分忙しかった。私は、大阪全体の木材流通量の1割から1割5分くらいは増えたんじゃないかという気がするんです。万博のあれだけの投資で木材がどれだけ動いたかということは、詳しく調査する必要があると思ひますけれど。

◎ 空港建設で人口の都市化と所帯数の増加

部長 70年万博と今回の空港建設とでは、木材に限らず基本的に違ふのは、一過性のものとこれからずっと活動を続けるものという点であって、その需要にも持続性があるということが違ふんです。もうひとつは、万博の時分には基本的な人口の変動というものに若干の影響があったかも知れませんが、まあそれ程のことはなかったと思ひます。ところが、大阪府の人口推計では空港が出来るということで、およそ20万~25万人増える。そのかなりの部分は泉州方面で増えるだろうというのがひとつあるんですね。ですから、これに関連して相当の住宅の手当てを泉南地区でしなければいかんということになる。この辺が、前の万博の時とかなり違ふ点だと思ひます。

それからもうひとつは、人口の在り方がやや都市化して来る、変な言葉ですが、今まで泉南地方というのは、どちらかと言うと農林漁業主体というイメージがどうしてもあった。それが今度、24時間空港が出来ることによって住む人が都市的産業につく。生活も都市化

することが予想される。ごく一例なんです、かなり張り付いてくる人口は、現在より、もっとその所帯構成単位が小さくなる。つまり人口の増え方に較べて所帯数の増え方が大きくなって来るだろうと思うんですね。60年度の人口の計算というのが発表されましたが、人口の伸びよりも所帯数の伸びがちょっと予想よりも多んじゃないかならうかという気がする。そういうことはやはり木材需要の面に影響があるんだらうという感じを持っております。

理事長 空港の整備をする人からパイロットやそれらに関連する人など、やはり空港が出来たら相当増えるんですね。20万~25万人の人口が増えるというんだから。

部長 ただ、そういう都市的な生活の中での木材の需要というのをどういう具合に開拓していくかということが、これからの課題だと思います。大阪の地価の関係からみて、住宅の主体が鉄筋というものになってくるでしょう。しかし所得が非常に上がってくるから、土地の面積が少なくても、最近あちこち展示されているようなかなり高級な木造主体の住宅も出てくるかも知れない。しかし、それ以上に住宅の大宗を占める鉄筋の中で、木という素材をどう活かしていくかということが大切でしょうね。潜在的需要は十分あるわけですから。

今後、全体的に所得が上がり、生活が高水準化していく中で木に対する欲求が強まってくるわけですね。例えば、最近外食産業なんかで、ドライブインとかを見ても、木をふんだんに使っている建物が多いですね。それはやはり、そういうものの中に入ることによって気持ちも安らぐし、快適性もある。

理事長 とくに自分の家に無いから、余計に求めたいということもあるかもしれない。

部長 ええ、ですからそういうような建物の中での木の在り方というものを、仮に鉄筋の中であっても内装用材としてなのか、家の造作材としてなのか、或いはそれ以外の家具などとかいうものを含めて、もっと何か考えないといけないという気がしますね。

● 空港建設に伴う木材需要の増加は1000~2000億円？

理事長 それでね、万博の年の昭和45年に製材所をつぶした丸太の量がものすごく多い。しかし、万博の年に大阪府下の建築着工戸数が45~48年の中で一番少ないということは、住宅以外のところへ木材が使われていたということで、仮設とかそれ以外のところへ出ていたといえる。万博期間は45年の3月から9月までですから、本当は44年ぐらいにその兆しが出ていなければならないと思うんですね。木材を使う量というのは、住宅が半分強を占めてますけど、それ以外でこの4年間に相当動くと思うんですね。今、おっしゃったように、少しでも木を使おうということになってくると遊具や柵にしても木を使おうじゃないかというような動きになってくる。

あの万博の時、日本では「木みたいなものはあかんで」と言われた真最中だったんですよ。カナダ館がフローア全部に米松のむく材を敷きつめて、みんなをアッとさせたわけですね。あれが日本での木材再発見のはしりです。その45年からずっと識者は、ああいうものがないかと、建築家なんかでも、随分見直した人がいたけれども。本格的に本物志向と一緒に木材を見直してきたのは、52・3年頃ですからね。あの万博の時と今とでは木に対する関心度が違うから、まあそこらがどうなるかなと……。

万博の時の府下北部の業者は取扱い量が倍くらいになったんじゃないですか。だから私は大阪全体で10~15%ぐらい多くなったと思うんです。今度もこんな計算があてはまるのかちょっと分らんですけど、空港関連で直接、間接も含めて3兆円、それがまわりまわってくると3倍になるという話だから10兆円、その中の1%から2%が木材の需要として出てくるとすれば、大体1,000億円から2,000億円となり、 m^2 当り平均5万円としたら、

200万 m^2 から400万 m^2 で、これは製品だから3割を掛けると、260万から520万 m^2 ぐらいの量が3年になるか4年になるか分らないが、需要として出てくると……。

大阪府下の木材流通量は全国の何%と言っていましたかね。13~16%とか言っていましたね。13%とみたら全国の素材使用量が6,000万 m^2 とみて、1年間に大阪で使用する量は780万 m^2 ぐらいになる。そうすると先程の260万から520万 m^2 を大雑把に平均してみても、大体100万 m^2 ぐらいが4年間にわたって増えてくるのではないかと、ということは大体12~13%ぐらい平均して増えることになる。これは全く無茶苦茶な、大雑把な計算ですが、私は万博の時の状況からみても木材の平均年間需要量に対して、15%から20%ぐらいのものは増えるのではないかと思います。それが何年間にわたって増えるのか……。

部長 その辺のところは詳細には分かりませんが、道路とか鉄道とか、そういう公共事業のペースは全体としてそんなに早くはいかないと思うんですね。空港の開港時というのと67年のことですから、メイン道路がつくのは67年と一応開港に支障のない時期になるのでは……。ところが実際には空港関連で、それからまだ大分公共事業が続きますから、万博とその辺が違うところなんです。

理事長 空港が出来てからも続く公共事業というのは、空港投資3兆円の内、関連事業2兆円という数字の中に入っているんですか。

部長 それは入っていると思います。ですから、その2兆円の計算は私も確かめていませんが、開港時までに要る分だけを言っているんじゃないと思います。例えば地域整備計画ということで、今度大阪府がいろいろと出していますけれども、それを「概ね開港時までに着工」というかっこうで表現しているものはかなり含まれている。道路も開港時までに全部するというのはちょっと……。というのは、先程申し上げたように万博と違って周辺の都市開発にどう対応していくかというのが、空港が出来た後まで含めての問題になりますので、もう少しロング・スパンじゃないかと思えます。特に、住宅なんかは更にそこから後の問題として出てくる。万博の時のように、その時まで間に合わせてというものではないという感じがしますけれど。

理事長 万博の時は、私は大阪の業者だけでなく木材に関しては京都、奈良、神戸の業者も大分入っていたと思うんです。今度の場合は和歌山の業者は入ると思うんですよ。しかし、他からはちょっと行きにくい距離にあるし、それでは西の方から船でという訳にもいかない。だから大阪の業界はそれまで皆、頑張らなければいけない。京阪奈学園都市の関係は、これは大阪よりも逆に奈良とか京都の業界の方が仕事としては多くなるかも知りません。大手の建設業者は大阪の業者が多いので、そういう関連でくっついていくかも知りませんけど。

部長 まあ、確かにその時までにする投資は相当あると思います。ですから、開港時までにかなり投資が集中することは事実ですけれども、万博の時のようにそこでボンと途切れるということではないわけです。

理事長 それでは次に、木材の供給についての問題ですが、林野庁がいつも発表しているデータはチップとパルプが入っているんですね。パルプ、チップというのは我々の流通のところを直接経由しているわけではありませんから、我々が肌で感じているのと、ちょっと違いますね。ちょっと違うという意味は林野庁のデータでは54年が一番ピークで、外材率が70%近かったということですが、それからずっと外材率が減って又増えてきているんですね。そこらの感覚がどうも我々が肌で感じているのと違うなと思って、パルプ、チップをはずして国産材の丸太だけで割ってみますと、やっぱり54年は内地材の供給の率というのは一番低いんですが、それからずっと増え続けているんですよ。毎年1%から2%ずつ段階を追って増えているわけです。私はこれの方が我々の感覚に合っていると思います。

部長 そうですね、この頃私の事務所へもアメリカとかカナダとか、いろんな国の方がよくみえましてね、林業関係の人が非常に多いんです。国際的に日本を市場として認識し、何とか売り込む方法がないかと考えておるわけです。だから、円高の問題もありますし、ますますそういう外国からの圧力が強まってくると思うんですね。

ところが一方では、日本の森林資源というものをやっぱり守っていかなければならない。国も1千5百億円をかけて5カ年の活力回復対策をやると言ってます。単に、1千5百億円だけの効果じゃなくて、波及的な効果も含めて日本の森林を充分守っていけるような、つまり日本の素材が外国のものと同様に太刀打ちしてやっていけるような環境を何とか作っていく努力が必要だと思うんですね。

理事長 やっぱり日本の国の林業家も、これからアメリカと競争していこうと思ったら、アメリカから日本へ持ってくる運賃だけは、これは有利なわけですから、伐採費とか或いは運賃とかを安くする工夫をして、商社の人の言うように「なかなか日本は勝てん」ということのないようにしないといけないんじゃないでしょうか。61年度の林野庁の予算でも間伐関係予算は、去年の80%増ですからね。



◎ 川上と川下の木材産業は一体化へ

部長 日本の場合はアメリカと違って非常に国土が小さい。しかもヨーロッパの面積の似た国と較べて可住地面積も少ない。そういうところに住んでいる人間としては、やはりその生活環境に対する認識というか、要求が高まらざるをえないわけですね。日本の環境を一番守っているのは森林だと思うんですね。だから川下の木材業界の方も川上の問題について一緒になって取り組んでいこうという気持ちをもっていただきたいと思いますし、また川上は川上でまあええがなということじゃなくて、両者一体になってそういう日本の環境を守り、また日本の産業を守っていくということが必要ですね。そもそも木という素材が、そういう性格を持っておるわけですからね。

理事長 それは、今まで山の連中はわしが損することは川下の連中がもうかることやと、川下の連中が損することはわしがもうかることやというような割り切り方をしているものですから、部長さんがおっしゃるように両者一緒になった考え方が非常に乏しいですわね。

部長 これも大変身近な例でね。間伐の問題が非常に言われてますね、間伐の問題は何とかしないといけないと思っているわけで、できるだけ間伐材を使ってもらいたいと役所の方でも勿論言っておりますし、個人的なステージでもどこそこでテニスのクラブハウスを作りたいという話があれば、ひとつ間伐材で作ったらどうですかというようなことを言ってます。また、私のところへいろんな人が出入りされますが、全然違う分野の例えば、京都の伝統工芸をやってるような人が突然、間伐材というものがあるらしいと言ってくる。やはり宣伝といいますか、PRがいき届いてますからそれを活用して何かやってみたいと、そういう分野に目を付け出している。間伐材を使ったログハウスのようなものに対して、非常に人気が集まり需要もある。

また、片方ではそういうものを使ったら良いのではないかと目を付けている人もいます。しかし、実際にやってみると非常に高い価格になって、現実にはなかなかうまくいかない。この辺が、生産地での川上の問題もあると思いますし、また流通の方でも問題がないとは言えないんじゃないかと……。非常に卑近な問題ですけど、差し迫った問題をつかまえても何らかの新しい解決策を皆で考えていかねばいかんと思うわけです。

理事長 それでは次に木材団地と地域の問題ですけども、今、うちの木材団地地区は面積で美原町全地域の5%、人口は昼間人口を入れると10%と町の内で相当なウェイトを占めています。美原町へ商工関係の見学者が来た時も木材団地へ来るわけです。また、木

材団地を何とか区画整理してほしいということで10年来言っておったわけですけど、やっとこの2月10日から木材通1丁目~4丁目というのをを使ってよろしいというところまでできました。これは私は、町長さんや一生懸命やってくれた町会議員の方々も、我々の木材団地を十分認識してくれたおかげだなあと思っているわけです。

23年前に我々の木材団地協同組合が出来たわけですけど、その前は西長堀、幸町、それから小林町、千島町という所が木材の中心だったわけです。それが平林や岸和田のコンビナートや美原や銘木団地へ移るということで、勿論、幸町とか長堀にも木材業者はおりますが、もう従来の規模の半分以下になっている。今、平林、岸和田、美原、銘木と4つの団地なんですけど……。これから、これらの団地がどう変わっていくかなあ……。私は相当様変わりするのではないかと思います。



◎ 地元の経済と生活面に密着した団地に

部長 地域とその地域に接する産業団地との関係は昔からなかなか難しい問題で、例えば堺・泉北という巨大な工業地帯がありますが、これも出来た当初は、考えられていたほど地元との結びつきというものがなく、その地域と対立関係にあったわけです。最近ではだんだん地元との経済的な結びつきというのが濃密になってきておるようです。もう少し小さい規模で言うと泉佐野に食品コンビナートというのがありますね。これが泉佐野市の工業生産高の2割ぐらいでしたか、相当大きなウェイトを占めている。税収の面でもかなり大きいものを占めている。堺・泉北にしても泉佐野のコンビナートにしても地元企業との結びつき、あるいは地元経済全体に対する寄与というのはかなり大きなものがあると思いますけど、そういうような経済面での結びつきというのをこれからもこの木材団地の場合も深めていかなければいけないと思います。

また、木材団地の場合はそこに実際に人間が住んでいるというところが違うところだと思えますね。ついそこに臨海部があるというのじゃなくて、ついそこに前からあったようなあるいは、新しく開けた住宅があるという中では経済面の結びつきと同時に、生活面での住民との密接な関連というものを意識していかれる必要があると思えますね。木材団地はウッドリームも作られたし、それから団地の緑化も進めておられパイロット事業を活用していただいている。それから木造の郵便局というユニークなものを作られたわけですね。そういうように非常に地元の生活の中に融け込んでいくようなスタイルになってきつつある、「木材通」という地名も含めてですね。そういうことは大変いいことじゃないかと思えますし、そういうような結びつきを深めていかれることによって理解も得られ、一緒に発展していくということになるんじゃないかなという気がします。

理事長 この前木材団地でウッドフェアをやったんです。1日に12,000人~13,000人来られましたね。

部長 たくさんこられたらしいですね。

理事長 それで心齋橋みたいな景況でね、私らはうまくいったら3,000人少なくとも2,000人ぐらいは来てほしいなと言っておいたら、ある人は15,000人と言ってるけど組合から見ると1万2・3千人と違うかと思っておるわけですけど……。

部長 実は、昨日、知事と雑談をしてましてね、たまたま木材の話になっていろんな話をしていて、「この前作った木材団地のウッドリーム、その後活用されてますか」とおっしゃったんで、「いやあれが半年間で18,000人入っているんですよ」と言ったら、知事も感心しておられました。まあ、よく活用されてますね。

理事長 ウッドリームの今後の方向ですけど、ウッドリーム大阪が出来て一番うれしかったのは、大阪府下の高等学校の社会科の先生がね、研修をするということで2班に別れ

て約75人お越しいただきました。社会科の先生に、木材の勉強してもらわんといかんということで、場所は無料で使ってもらいました。私も前の日に一日がかりで資料をわんさとしらえましてね。それで時間を若干のばしてもらって、知ってほしいことがこんなことがあります、こんなこともありますと、いろいろ説明したんですがね。大阪府下の高等学校の全部の学校から1人ずつ来てくれたんです。こういうことが次々と派生していきますと、いいことだなあと喜こんでいるんです。

◎ ウッドリーム大阪を地域の誇りとする施設へ

部長 ウッドリームというものをね、1つの産業のグループとしてだけでなく、その地域としても、誇りになるようなものとして伸びていかれるということが必要だと思えますね。1次加工じゃなくて、2次、3次加工をやっておられるわけですから、これからもひとつ研究開発とか情報のセンターとして大いに伸びていっていただくと、そのことがやはり地域にとっても誇りにしたい施設ということになってくるという気がしますね。

◎ 木材産地県は、ウッドリーム大阪に出展してPRを……

理事長 講演会の中に木と文化という項目を入れましてね、それを2か月に1回ぐらい今までに3回実施しているんですけど、今は50~60人しか1回に来てくれてませんので、もっと奥様方を組織化して毎回100人ぐらい来てくれるようにしていきたいなと思っているんです。知ったら来たいという人が随分おると思うんですけど。

今日農林部の「農林漁業振興ビジョン」の——豊かな森林資源の確保のために——をピックアップしてきたんですけど、あの中に府民に対する木工教室があるんですが、うちのウッドリーム大阪の中でまだ充分動いていないのは木工教室なんです。その場所が今から反省しますと3人ぐらい入ったらいっぱいなんです。しかし本当の木工教室をやると思えば私は別のところへ造らないといかんのやないかと思っています。この前、夏休みに子供の木工教室をやったんです。それはうちのウッドリームの裏のグラウンドでやったわけですが、それで組合員の端材をもってきてくれと言ったら沢山集まりましてね、3日間やったんだけどもまだ木の材料が3倍ぐらいあまっているような状況でしてね。これをこの振興ビジョンに掲げているように木工教室を何処かでやろうということであれば、うちの団地なんかもってこいやないかなと思います。生きがい教室的な、老人対策的なそういう木工関係のものが、府の民生部になるのか労働部になるのか、あるいは農林部の本来の仕事なのかわかりませんが、そういうものがうちの団地に来てほしいなというようなことを思っているわけです。これからは、国産材の時代に入っていくわけで、産地等は、ウッドリーム大阪に出展してPRする位の心構えが必要だと思っているんですがね。私は5年もしたら産地県はいてもたってもおれんと思いますね。

部長 最近九州あたりの県の農林部長さんが私のところへやってきて、よろしくなんてという時代になってきましたんでね。今までそんなことなかったですよ。やはりこれから出てくると思いますよ。いやおっしゃるようにもうあと5年もしたらね……(笑声)

理事長 今は、まだ、よろしくぐらいの挨拶で済むけど。

部長 いやほんとにね、そうだと思うんですよ。そういうことはやっぱり先を見て行政としての手を打たなくちゃいかなのですが、なかなかね。

理事長 その時も皆、県に予算がないから業者に話をすると言うてましたけどね。私は業者というより県が年間25万ぐらいの予算を出してもそこへ進出しておくべきであると思ったんですけど、あきまへんでした、それは。

部長 これからは業界も行政も時代の変化を見通して、来たるべき国産材時代に対応していく必要がありますね

理事長 どうもありがとうございました。

—— 終 ——